

日本経済政策学会ニューズレター

No.38 2024

1. 会長挨拶

2. 日本経済政策学会議事録

I. 審議事項議題

1. 会員状況について
2. 2023 年度決算書について(4 月 19 日監査済)
3. 2024 年度予算書について
4. 全国大会・国際会議について
5. 関西部会の本部幹事、部会幹事、理事変更について
6. その他

II. 報告事項

1. 学会の入会方法の規定について
2. 学会の退会及び再入会の規定について
3. 本部会務報告(会員情報システムの運用開始について)
4. 名誉会員の推薦について
5. 学会賞の選考について
6. 理事選出、常務理事選挙について
7. 各部会報告
8. 各委員会報告 (国際交流委員会:国際会議のあり方について)
9. その他

1. 会長挨拶

2024年から2025年にかけて、いくつかの国々において政権の枠組みの変更や政権そのものの交代が発生しております。社会的な課題として、インフレや格差の拡大といった経済問題が多く議論されているにもかかわらず、政策当局からはどのような社会を作るのかそのためにどのような経済政策を行うべきなのかといった議論が行われている様子はありません。我が国の高度成長期のような経済がどんどん拡大している状況においては、追加的に発生した経済成長の成果をどのように分配するのかを考えることによって、経済格差やインフレの問題にはある程度対応できたのですが、経済成長がゼロやマイナスといった局面では、再分配とは一部の人々の所得を減らす政策が必要になってきます。

所得を減らす対象となる一部の人々とはどのような人なのか、あるいは経済成長を加速させるような秘策があるのか、このような問題を考えるのが経済政策の重要な課題の一つであることは間違いありません。経済学や経済政策においては、パレート改善的な政策が現実的でないケースが多いことが知られています。このようなときには、経済学の範囲を超えて経済政策を提案せざるを得ないことが出てくるのかもしれない。

また経済政策の分野においても、証拠に基づく政策立案(EBPM: Evidence Based Policy Making)の重要性が指摘されていますが、これと同時に、近年のデータ・サイエンスの発展は、様々な経済分析方法の可能性を示唆しています。その多くは、緩やかな仮定の下での分析であるように見えて、様々な限界を抱えており、気づきにくい仮定の下にデータを解析していることがしばしばあります。経済政策の研究者は、既存の分析方法を含め、分析における方法的な限界や、分析の前提としての仮定を充分理解した上で、分析結果を読み取り、政策提言に結び付けなければなりません。近年のデータ・サイエンスの発展は、我々に新たなハードルを突き付けているのかもしれない。

わが国をはじめ、世界の国々における経済政策の評価や新たな提言のために、日本経済政策学会が、幅広い人材をリクルートし、様々な角度から経済政策に関する議論ができる場所を提供できることを祈念して、3年目の会長のご挨拶としたいと思います。

福重元嗣

2. 日本経済政策学会議事録

日本経済政策学会
第81回全国大会

日本経済政策学会 会員総会次第

2024年5月18日
於 熊本学園大学

○ 大会校 挨拶

I. 審議事項議題

1. 会員状況について
2. 2023年度決算書について
3. 2024年度予算書について
4. 全国大会・国際会議について
5. 関西部会の本部幹事、部会幹事、理事変更について
6. その他

II. 報告事項

1. 学会の入会方法の規定について
2. 学会の退会及び再入会の規定について
3. 本部会務報告(会員情報システムの運用開始について)
4. 名誉会員の推薦について
5. 学会賞の選考について
6. 理事選出、常務理事選挙について
7. 各部会報告
8. 各委員会報告(国際交流委員会:国際会議のあり方について)
9. その他

I. 審議事項議題

1. 会員状況について 会員状況について

2024年5月15日現在

		A	B	C	D	E	計
		関東	中部	関西	西日本	海外 その他	
前年度	一般会員	323	78	177	66	-	644
	学生会員	14	3	18	7	-	42
	シニア会員	44	12	19	7	-	82
	名誉会員	8	3	6	4	-	21
	海外会員	-	-	-	-	5	5
	準会員	0	0	0	0	-	0
	団体会員	2	0	0	0	-	2
	賛助会員	0	0	0	0	-	0
	計	391	96	220	84	5	796
現会員	一般会員	315	76	177	69	-	637
	学生会員	20	2	18	7	-	47
	シニア会員	44	11	19	7	-	81
	名誉会員	8	3	6	4	-	21
	海外会員	-	-	-	-	5	5
	準会員	0	0	0	0	-	0
	団体会員	2	0	0	0	-	2
	賛助会員	0	0	0	0	-	0
	計	389	92	220	87	5	793
新会員	一般会員	3	1	6	2	1	13
	学生会員	3	2	7	3	1	16
	シニア会員	0	0	0	0	0	0
	計	6	3	13	5	2	29
復活会 員	一般会員	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0

総計	395	95	233	92	7	822
会員資格の喪失	24	5	7	5	1	42
退会予定者（訃報含）	13	2	8	1	0	24
変更後の総計	358	88	218	86	6	756

会員異動

#はシニア会員、*は学生会員

①訃報（届出順）

1	水吉 俊彦		#	2	鈴木 喬		#
3	前川 俊一	明海大学名誉教授	#			(以上3名)	

②退会者（届出順）

1	水吉 福子	イオンド大学	#	2	家森 信善	神戸大学	
3	村上 仁美	南山大学		4	森内 泰	長崎県立大学	*
5	竹中 康治	日本大学		6	王 娜	東洋大学	
7	岡野 光洋	大阪学院大学		8	八幡 一秀	中央大学	
9	水野 清	大阪経済法科大学		10	跡田 直澄	京都先端科学大学	
11	柳原 光芳	名古屋大学		12	二村 英夫	帝京大学	
13	山口 三十四		#	14	小柴 徹修		#
15	鳥居 昭夫	中央大学		16	小川 雅弘	大阪経済大学	
17	古屋 牧子	城西大学		18	三好 和代	大阪商業大学	
19	土田 壽孝	國學院大学		20	北井 義久	日鉄総研株式会社	
21	加藤 好雄	福知山公立大学				(以上21名)	

③会員資格の喪失

別紙参照

④復活会員

無し

⑤所属・部会・変更・訂正（50音順）

	名前	旧所属		新所属	旧	新部会
あ	岩崎 雄也	青山学院大学	# →	神奈川大学	関東	関東
か	金 承華	関東学園大学	→	九州産業大学	関東	→ 西日本
さ	鈴木 俊光	中央大学	→	下関市立大学	関東	→ 西日本
た	田鹿 紘	九州国際大学	→	山陽学園大学	西日本	→ 関西
な	中島 朋義	(財)環日本海経済 研究所	→	新潟県立大学		

	西澤 隆	野村證券	→	帝京大学	関東	→	関東
は	東 雄大	岡山大学	→	京都産業大学	関西	→	関西
ま	門傳 藍香	二松學舎大学	→	京都大学	関東	→	関西
	三浦 一輝		→	愛知学院大学			
	宮下 大輔	名古屋大学大学院 *	→	北九州市立大学	中部	→	西日本
							(以上 10 名)

⑥シニア会員(50 音順)

	名前	旧所属	→	新所属			
な	中村 慎助	慶応義塾大学	→	慶応義塾大学	一般	→	シニア
ま	森岡 洋	三重短期大	→	無し	一般	→	シニア
							(以上 2 名)

⑦海外会員 無し

⑧ 2024 年度新会員

名前		所属	推薦者	部会
増山 亮	*	神戸大学	神戸大学 水野 倫理 大阪産業大学 生田 祐介	関西
住宅 亨介	*	広島経済大学	広島経済大学 野北 晴子 広島経済大学 楊 義申	関西
ヴィサテップ スクサバン		立命館大学	立命館大学 黒川 清登 立命館大学 青木 芳将	関西
明石 昭生	*	久留米大	久留米大学 秋本 耕二 九州産業大学 秋山 優	西日本
張浩文	*	国立陽明交通大学	大阪大学 福重 元嗣 関西学院大学 宮田 由紀夫	海外
キョウ イチ	*	立命館大学	立命館大学 坂西 明子 立命館大学 青木 芳将	関西
田中 裕美子		福井県立大学	同志社大学 竹廣 良司 公立鳥取環境大学 石川 真澄	中部
広瀬 恭子		九州産業大学	大阪大学 福重 元嗣 九州産業大学 秋山 優	西日本
元山 善一		久留米大学	九州産業大学 秋山 優 麻生公務員専門学校 柏木 士郎	西日本
朱 浩良		大阪経済法科大学	同志社大学 川上 敏和 同志社大学 竹廣 良司	関西
下村 研一		立命館アジア太平 洋大学	釧路公立大学 胡 青 神戸大学 水野 倫理	関西

徐 慧	*	神戸大学	釧路公立大学 胡 青 神戸大学 水野 倫理	関西
沈 家皓	*	名古屋大学	名古屋大学 加藤 尚史 札幌学院大学 森 邦恵	中部
宮里 紗綾	*	明治大学	明治大学 飯田泰之 明治大学 許乃磯	関東
夏 葉城	*	上智大学	帝塚山大学 竹中 昂平 上智大学 柘植 隆宏	関東
崔 先集		WORLD CLASS ENTERPRISES ASSOCIATION OF KOREA	大阪大学 福重 元嗣 熊本学園大学 朴 哲洙	海外
張 テイテイ	*	関西大学	関西大学 秋岡 弘紀 関西大学 良永 康平	関西
李 慧慧		武蔵大学	神戸大学 勇上 和史 京都産業大学 東 雄大	関東
渡邊 壽大		淑徳大学	嘉悦大学 和泉 徹彦 淑徳大学 矢尾板 俊平	関東
谷村 智輝		同志社大学	同志社大学 北川 雅章 同志社大学 竹廣 良司	関西
小川 一仁		関西大学	大阪大学 福重 元嗣 関西大学 鶴飼 康東	関西
方 鳳麒	*	東京理科大学	東京理科大学 野田 英雄 日本女子大学 伊ヶ崎 大理	関東
何 協		東京理科大学	同志社大学 竹廣 良司 同志社大学 北川 雅章	関東
矢田 晃己	*	愛知学院大学	愛知学院大学 吉田 雅彦 愛知学院大学 渡邊 隆俊	中部
足立 莉子	*	同志社大学	同志社大学 竹廣 良司 同志社大学 北川 雅章	関西
阿南 文明	*	大分大学	大分大学 渡邊 博子 大分大学 高見 博之	西日本
方 一寧	*	大分大学	大分大学 渡邊 博子 大分大学 高見 博之	西日本
友田 康信		大阪経済大学	大阪経済大学 野村 友和 龍谷大学 木下 信	関西
端水 紀亜羅朱	*	関西大学	関西大学 秋岡 弘紀 関西大学 本西 泰三	関西
			(以上 29 名)	

以上

2. 2023年度決算書について その1

2023年度決算書(2022年4月1日～2023年3月31日)

収入			支出		
摘要	2023年度予算	2023年度決算	摘要	2023年度予算	2023年度決算
前年度繰越金	15,860,924	15,860,924	大会費	1,200,000	1,200,000
予備費	15,860,924	15,860,924	国際会議費	1,200,000	1,200,000
会費	7,300,000	3,800,000	部会費	540,000	540,000
個人会員	7,200,000	3,750,000	関東部会	150,000	150,000
団体会員	100,000	50,000	中部部会	120,000	120,000
賛助会員	0	0	関西部会	150,000	150,000
			西日本部会	120,000	120,000
余剰金		537,828	委員会費	520,000	188,220
2023年第80回全国大会費返金		537,828	組織委員会	50,000	0
			経済政策ジャーナル編集委員会	200,000	88,220
利息等		50	国際交流委員会	40,000	0
その他		29,388	国際会議プログラム委員会	40,000	0
りそな普通預金(国際会議基金)から一般会計へ		135,000	IJEPS編集委員会	40,000	0
※2022年度国際会議年会費		30,000	学会運営企画委員会	50,000	0
2023年度国際会議年会費		105,000	全国大会プログラム研究・開発委員会	50,000	50,000
			情報委員会	50,000	50,000
			IJEPS刊行費	2,050,000	2,003,500
			※22年度分りそな銀行へ振替返金分		2,003,500
			学会連合分担金	35,000	35,000
			本部事務費(関西学院大学)	2,200,000	1,695,855
			事務諸費	1,500,000	1,582,353
			印刷費	150,000	0
			通信費	100,000	84,114
			会議費	200,000	0
			IJEPS校正料	150,000	0
			選挙費用	0	0
			その他	100,000	29,388
			小計	7,745,000	8,866,075
			次年度繰越金	15,415,924	11,497,115
			予備費	15,415,924	11,497,115
総計	23,160,924	20,363,190	総計	23,160,924	20,363,190

2023年度繰越残高は、下記5つの預貯金口座の2024年3月31日時点残高の合計と一致しております。

2024年3月31日預金口座残高	
ゆうちょ銀行普通口座	736,678
ゆうちょ銀行当座口座(入金用)	7,912,000
ゆうちょ銀行定期口座	2,117,000
みずほ銀行普通口座	514,292
池田泉州銀行普通口座	199,714
現金	17,431
合計	11,497,115

繰越金と口座残高	
決算報告書次年度繰越金	11,497,115
2024年3月31日預金口座残高合計	11,497,115

上記相違ないことを確認いたしました。

2024年4月19日

会計監事 鈴木 伸枝
野北 晴子

2023年度決算書について その2

2023年度 国際会議基金決算書(2022年4月1日～2023年3月31日) ※りそな銀行口座

収入		支出	
前年度繰越金	3,777,519	IJEPS刊行費	2,003,500
①22年度IJEPS刊行費戻入(22年度国際会議年会費差引額)	1,973,500	国際会議費調整金	300,000
2023.11.18第21回国際会議費 返金	832,742	振込手数料	440
②23年度IJEPS刊行費戻入(23年度国際会議年会費差引額)	1,898,500		
利息	41	次年度繰越金	6,178,362
	合計 8,482,302		合計 8,482,302

①=22年度IJEPS刊行費2,003,500円を海外送金をりそな銀行で支出。一般会計に戻入れする国際会議年会費30,000円を差引いた金額。

※本来ならば、2022年度処理するところ、5月総会後になってしまったため、本年度に計上。

②=23年度IJEPS刊行費2,003,500円を海外送金をりそな銀行で支出。一般会計に戻入れする国際会議年会費105,000円を差引いた金額。

2023年度繰越残高は、下記預貯金口座の2024年3月31日時点残高の合計と一致しております。

2024年3月31日預金口座残高	
りそな銀行普通口座	6,178,362
合計	6,178,362

繰越金と口座残高	
決算報告書次年度繰越金	6,178,362
2024年3月31日預金口座残高合計	6,178,362

上記相違ないことを確認いたしました。

2024年4月19日

会計監事 鈴木 伸枝

野北 晴子

3. 2024 年度予算書について その1

2024年度予算案(2024年4月1日～2025年3月31日)

収入			支出		
摘要	2023年度決算	2024年度予算	摘要	2023年度決算	2024年度予算
前年度繰越金	15,860,924	11,497,115	大会費	1,200,000	1,200,000
予備費	15,860,924	11,497,115	国際会議費	1,200,000	1,200,000
会費	3,800,000	7,100,000	部会費	540,000	540,000
個人会員	3,750,000	7,000,000	関東部会	150,000	150,000
団体会員	50,000	100,000	中部部会	120,000	120,000
賛助会員	0	0	関西部会	150,000	150,000
余剰金	537,828		西日本部会	120,000	120,000
2023年第80回全国大会費返金	537,828		委員会費	188,220	520,000
利息等	50		組織委員会	0	50,000
りそな普通預金(国際会議基金)から一般会計へ	135,000		経済政策ジャーナル編集委員会	88,220	200,000
その他	29,388		国際交流委員会	0	40,000
			国際会議プログラム委員会	0	40,000
			IJEPS編集委員会	0	40,000
			学会運営企画委員会	0	50,000
			全国大会プログラム研究・開発	50,000	50,000
			情報委員会	50,000	50,000
			IJEPS刊行費	4,007,000	2,050,000
			学会連合分担金	35,000	35,000
			本部事務費(関西学院大学)	1,695,855	2,100,000
			事務諸費	1,582,353	1,500,000
			印刷費	0	0
			通信費	84,114	100,000
			会議費	0	100,000
			IJEPS校正料	0	150,000
			選挙費用	0	200,000
			その他	29,388	50,000
			小計	8,866,075	7,645,000
			次年度繰越金	11,497,115	10,952,115
			予備費	11,497,115	10,932,115
総計	20,363,190	18,597,115	総計	20,363,190	18,597,115

2024 年度予算書について その2

2024年度 国際会議基金予算案(2024年4月1日～2025年3月31日)

収入		支出	
前年度繰越金	6,178,362	国際会議費調整金	300,000
		IJEPS刊行費(一般会計より戻入)	2,003,500
		次年度繰越金	3,874,862
合計	6,178,362	合計	6,178,362

4. 全国大会・国際会議について

・全国大会について

日本経済政策学会第 82 回全国大会
(予定開催校 青山学院大学、実行委員長西川雅史)

1. 開催日 2025 年 5 月 17 日(土), 18 日(日)を予定
2. 会場 青山学院大学・青山キャンパス・17 号館の 1 フロアを利用予定
3. 日程案

3.1. 初日のプレナリー・セッション

会場: 大教室 1 室を準備

	セッション 1	Opening Remarks	セッション 2	セッション 3
	DX と民主主義		再分配政策	国家論と民主主義
時間帯	9:30-11:05	12:40-	13:30-15:30	15:45-17:20
コンセプト	デジタルエコノミー下での経済政策の在り方を取り上げる.		再分配政策の中から特に個人間の再分配を取り上げる.	政治や哲学などの視点から「日本の経済政策」を取り上げる.
形式・時間枠	総時間 95 分 発表 40 分×2 人 フロア質疑 15 分		総時間 120 分 発表 25 分×3 人 準備 10 分 パネル討論 20 分 フロア質疑 15 分	総時間 95 分 発表 40 分×2 人 フロア質疑 15 分
登壇者	調整中	調整中	調整中	調整中
司会	調整中	調整中	調整中	調整中

3.2. 懇親会

会場: 隣接 Restaurant filia を予定

3.3. 2 日目のパラレル・セッション

会場: 普通教室を 4 or 5 部屋準備(終日利用を想定)

4. その他

4.1. 昼食

昼食は手配いたしませんので、近隣で取って頂ければと存じます。
なお、土曜日は同じ建物 1 階の食堂が利用可能なはずですが、日曜日は使えません。

4.2. 理事会などの会場

理事会, 登壇者の控室, 委員会の打ち合わせ様に, 5月16日(金), 5月17日(土), 18日(日)に普通教室を終日1部屋おさえるように致します。5月16日(金)は夕方からのみ。

4.3. Wifi 環境

eduroam が利用できますが, 大会開催日に大学の無線 LAN が使えるように準備をします。

・第83回全国大会 2026年5月に関西学院大学上ヶ原キャンパスで開催予定。実行委員長宮田由紀夫

・国際会議について

2023年度第22回国際会議 (JEPA 2023) 業務完了報告書

国際交流委員会 委員長	土井康裕
委員長(国際会議担当)	矢尾板俊平
運営委員会 委員長	坂西 明子
副委員長	衣笠 智子
事務局長	青木 芳将
プログラム委員会 委員長	後藤 大策
副委員長	宮崎 智視
事務局長	長谷川 雄哉

日本経済政策学会第22回国際会議の業務概要と決算について、以下にご報告します。

(1)国際会議概要

日程:2023年11月18日(土)~19日(日)

場所:立命館大学大阪いばらきキャンパス(OIC)

開催形式:完全対面開催

(2)プログラム概要

■メインテーマ

“Economic Restructuring Post-Pandemic”

■プレナリーセッションテーマとゲストスピーカー

・Plenary Session 1: “Multistakeholder Leadership Collaboration in Global Governance: Shaping the Global Policy Agendas”
Akira Tsuchiya, President, The Global Institute (TGI), Switzerland

・Plenary Session 2: “Fiscal Policy in Post-Pandemic”

Hiroaki Miyamoto, Professor, Tokyo Metropolitan University, Japan

■スケジュール:第 1 日目

- ・10:30～12:30 レギュラーセッション1(6 セッション)
- ・14:45～15:00 ウェルカム・リマークス
- ・15:00～16:15 プレナリーセッション 1
- ・16:30～17:45 プレナリーセッション 2
- ・18:00～20:00 バンケット

■スケジュール:第 2 日目

- ・9:00～11:00 レギュラーセッション 2(6 セッション)
- ・12:00～14:00 レギュラーセッション 3(6 セッション)
- ・14:15～16:15 レギュラーセッション4(5 セッション)

(3) 報告件数、参加者数

■報告件数等

- ・レギュラーセッションのエントリー数 92 本
- ・報告許可数 81 本
- ・当日報告数 55 本(論文提出無し、辞退、支払い無しなどで、報告許可数から減少)

■参加者数

- ・参加費支払い者数 146 名(うち、国外の居住者は 34 名)
- ・国外からの参加者の居住国内訳(多い順から) ベトナム 7 名、台湾 6 名、インド 4 名、韓国 3 名、中国、インドネシア、マレーシア、ポーランド(各 2 名)、ポルトガル、スリランカ、パキスタン、タイ、ベルギー、フランス(各 1 名)

(4) その他

・今年度の国際会議は、2019 年度から 4 年ぶりに 2 日間の全面的な対面開催で、2023 年 11 月 18 日(土)～19 日(日)に立命館大学大阪いばらきキャンパス(OIC)で行われた。国内外から多数の参加があり、4 年ぶりにバンケットも実施されて参加者の約半数の出席があり、盛況のうちに終了した。

・決算報告書に記載されるように、国際会議の収支差額は、832,742 円の黒字であった。開催校の収支改善努力、大学への学会開催申請で会場使用料 100 万円超が全額免除となったことと、立命館大学からの各種補助金の外部資金獲得が黒字に寄与した。立命館大学、立命館大学政策科学会からは、第 22 回国際会議開催の後援を得た。そして、今年度は国外からの非会員の報告・参加割合が多く、参加者数自体は昨年度国際会議とほぼ同数であったものの、参加登録料収入が増えた。

・決算報告書の第 22 回国際会議会計における収支差額 832,742 円のうち、海外会員年会費 30,000 円、国内会員年会費 75,000 円を学会の一般会計の収入として、それ以外の 727,742 円を国際会議の基金の収入とする。

・当初は報告応募件数が例年よりも少なかったが、INOMICS への登録後に応募者数が大きく増えた。また、応募締切りを当初の7月末から8月25日へと延長をした。アブストラクト審査による報告許可後の論文提出無しや辞退等があった。

・第22回国際会議では、バンケット参加者の代金支払い方法をオンライン参加登録システムによるカード決済で設定した。参加者の種別に応じて、学生料金、一般料金の区分料金を設けた。バンケット代金を支払った参加者数70名のうち、12名が学生区分での参加であった。一般よりも低く学生の料金設定をしたことにより、若手の大学院生の参加を促すことができたと言える。バンケットでは、海外参加者にも喜ばれるような盛り付け、和洋の品目と分量の充実、ベジタリアン対応の品目を複数設けること、日本のお酒を含めたドリンクバーの充実によりもてなしをして、参加者間の交流に役立てた。

・JEP A2022 以前の国際会議に続いて、JEP A2023 立命館大学 OIC キャンパスでも、開催校の尽力により Wi-Fi 環境を確保した。また、国際交流委員会の担当者により、アブストラクト、報告論文を収録したデジタルマテリアルガイドの整備がなされ、印刷冊子や CD-ROM 論文集発行の費用が節減出来た。

・国際会議のプログラムの最終ページに、IJEPS の Call for Papers の情報を載せて、IJEPS の周知が図られた。国際会議終了後にも、国際会議プログラム委員会事務局より、参加者に対して参加のお礼と IJEPS への投稿を促すメールが送られた。国際会議の事前、事後に、参加者への丁寧な案内の連絡がプログラム委員会事務局より行われた。

・コロナ禍以降、4年ぶりの全面的な対面開催であったが、国際会議執行部の先生方の多大なるご支援とご協力、過年度からの引継ぎ、国内外からの多数の参加による活発な発表と討論のおかげで無事に開催し終了することができました。お礼申し上げます。

(5) 決算報告書

収入項目	金額	支出項目	金額
立命館大学からの学会開催補助金	89,000	会場ホール清掃料 (立命館大学)	65,670
立命館大学政策科学会からの学会開催補助金	76,000	プレナリーセッションホールの技術スタッフ人件費 (立命館大学)	117,700
立命館大学海外研究者短期招聘支援制度助成金	90,000	プレナリーセッション ゲストの講演料・宿泊費・交通費 2人合計	655,000
外部助成による収入合計	255,000	参加登録システム費用 (JTB)	441,974
本部会計からの運営交付金	1,200,000	補助アルバイト代	396,650
国際交流基金からの準備金	300,000	ゲストランチ	18,760
参加登録料収入・146人	967,000	休憩室用の飲料、菓子等	108,421
バンケット料金・70名分	340,000	文具費	8,643
参加者ランチボックス・2日間合計66名分	66,000	バンケット代金	391,000
年会費 (海外会員)	30,000	参加者ランチボックス・2日間合計66名分	66,000
年会費 (国内会員)	75,000	スタッフランチボックス・2日間合計65名分	65,000
利息	5	ゲストIJEPS原稿料 3万円×2人	60,000
		銀行手数料合計	5,445
収入合計	3,233,005	支出合計	2,400,263
		収支差額	832,742

注) 海外会員年会費 30,000 円、国内会員年会費 75,000 円を学会の一般会計の収入として、それ以外の 727,742 円を国際会議の基金の収入とする。

・2024 年度第 23 回日本経済政策学会国際会議の開催について(大会運営委員会・矢尾板俊平)

開催日程: 2024 年 12 月 7 日(土)、8 日(日)

開催会場: 淑徳大学千葉キャンパス

大会運営委員会
委員長 芹澤高斉
副委員長 矢尾板俊平

5. 関西部会の本部幹事、部会幹事、理事変更について(関西部会・衣笠智子)

以下の役員交代をお認めいただきますようお願いいたします。

本部幹事:春日教測先生(甲南大学) → 坂西 明子先生(立命館大学)

部会幹事:坂西明子先生(立命館大学) → 木下祐輔先生(大阪商業大学)

理事:山岡淳(大阪成蹊大学(3月末で所属変更の為)) → 岡崎拓先生(羽衣国際大学)

6. その他

なし

II. 報告事項

1. 学会の入会方法の規定について(常務理事・幹事会承認)

「入会手続」等の変更について

- ・手続きの迅速化と事務負担軽減を目的として、現在の「入会手続き」「学会規則」「日本経済政策学会会務運営細則に関する覚書」並びに「退会と再入会に関する内規」を組織委員会で検討
- ・2023年11月17日の常務理事・幹事会で審議の結果、承認
- ・変更点については以下の資料のとおり。

【資料1】「入会手続き」の変更について

【資料2】「学会規則」「日本経済政策学会会務運営細則に関する覚書」の変更について

【資料3】「退会と再入会に関する内規」の変更について

【資料 1】「入会手続き」の変更について

入会手続き(現行)

入会手続きについて

本学会に関する会員資格は、「会務運営細則に関する覚書」に従って次のようになっておりますので、ご確認ください。

会員資格:会員資格は本会規則第 4 条の規定に従い、国籍は問わない。個人会員は修士以上の資格ないし専門分野での同等の経験を有するものとする。

学生会員:大学院在学者(修士課程ないし博士課程前期・博士課程の在籍者およびオーバードクターとしての特別研究生)は本会規則第 6 条 3 号の規定する学生会員となることができる。学生会員は在学証明書を毎年本部に提出しなければならない。(なお、修士課程在籍者の取り扱いについては、日本学術会議の検討結果を待って、改めて規定する。)

入会を希望する方は、本学会の入会申込書に必要事項をご記入のうえ、本部事務局まで E メールでご送信ください。その際、本学会会員 2 名の推薦が必要です。推薦者 2 名の方を宛先 CC で送信してください。本部事務局から推薦者へ確認致しますので予めご了承ください。また、学生会員として入会を希望する方は、あわせて大学院在学証明書をご提出ください。

会費は個人会員 10,000 円、学生会員 5,000 円です。入会申込書の提出と同時に指定の振込口座へご納入いただき、受領証を添付してください。ただし、この会費は、全国大会時の総会で入会が正式に承認された後の会費(2023 年 5 月の総会で承認された場合は 2023 年度の会費)となります。

入会申込書をご提出いただきますと、全国常務理事・幹事に諮り、次の会員総会(毎年 5 月)で正式に承認される運びとなっております。

入会手続き(改正案)

入会手続きについて

本学会に関する会員資格は、「会務運営細則に関する覚書」に従って次のようになっておりますので、ご確認ください。

会員資格:会員資格は本会規則第 4 条の規定に従い、国籍は問わない。個人会員は修士以上の資格ないし専門分野での同等の経験を有するものとする。

学生会員:大学院在学者(修士課程ないし博士課程前期・博士課程の在籍者および博士課程満期退学者・博士号取得者)としての特別研究生)は本会規則第 6 条 3 号の規定する学生会員となることができる。学生会員は在学証明書を毎年本部に提出しなければならない。(なお、修士課程在籍者の取り扱いについては、日本学術会議の検討結果を待って、改めて規定する。)

入会を希望する方は、本学会の入会申込書に必要事項をご記入のうえ、本部事務局まで E メールでご送信ください。その際、本学会会員 2 名の推薦が必要です。推薦者 2 名の方を宛先 CC で送信してください。本部事務局から推薦者へ確認致しますので予めご了承ください。また、学生会員として入会を希望する方は、あわせて大学院在学証明書をご提出ください。

会費は個人会員 10,000 円、学生会員 5,000 円です。入会申込書の提出と同時に指定の振込口座へご納入いただき、受領証を添付してください。ただし、この会費は、全国大会時の総会で入会が正式に承認された後の会費(2023 年 5 月の総会で承認された場合は 2023 年度の会費)となります。

入会申込書をご提出いただきますと、全国大会および国際会議に合わせて開催される全国常務理事・幹事会で承認を経た後、次の会員総会(毎年 5 月)に報告されます。また国際会議に合わせて開催される全国常務理事・幹事会で承認された新規入会者は、申し出により当該年度の会費の半額を次年度の会費へと繰り越すことができます。

【資料 2】「学会規則」の変更について

入会手続きに係る学会規則(現行)

第 5 条 本会に入会しようとする者は会員2名の紹介により常務理事会に申し込み、次の総会の承認を受けねばならない。

入会手続きに係る学会規則(改正案)

第 5 条 本会に入会しようとする者は会員2名の紹介により常務理事会に申し込み、全国常務理事・幹事会で承認を経た後、次の会員総会(毎年 5 月)に報告されるものとする。

【参考】学会規則の変更について

第20条 本規則の変更および本会の解散は理事の過半数または会員の10分の1以上の提案により総会出席会員の3分の2以上の賛成を得なければならない。

日本経済政策学会会務運営細則に関する覚書(現行)

学会規則

第 8 条 退会しようとする会員は書面によりその旨を常務理事に申し出なければならない。

第 9 条 会員であって会費を継続して 3 年以上滞納した場合は原則として会員の資格を失うものとする。また本会の体面を毀損する行為がある時は理事会の決議により除名されることがある。

日本経済政策学会会務運営細則に関する覚書

3-10 会費滞納:会費を 2 年以上滞納した会員が納入した会費は、滞納初年度の会費から順次充当する。会員が納入年度を特定した場合も同じ。

また、会費滞納者に対して次のような措置をとる。①選挙会員名簿には掲載しない、②該当年度の『経済政策ジャーナル』を送付しない、③全国大会と部会での研究報告を受け付けない。

3-13 会員資格の喪失:会費滞納により会員資格を喪失した者については、常務理事会及び総会に報告したうえで、会員名簿から削除する。滞納分の会費が完済され、退会届が提出されたときに退会を認めることとし、それまでは本部事務局預かりとする。

日本経済政策学会会務運営細則に関する覚書(改定案)

学会規則

第 8 条 退会しようとする会員は書面によりその旨を常務理事に申し出なければならない。

第 9 条 会員であって会費を継続して 3 年以上滞納した場合は原則として会員の資格を失うものとする。また本会の体面を毀損する行為がある時は理事会の決議により除名されることがある。

日本経済政策学会会務運営細則に関する覚書

3-10 会費滞納:会費を 2 年以上滞納した会員が納入した会費は、滞納初年度の会費から順次充当する。会員が納入年度を特定した場合も同じ。

また、2 年以上滞納した会費滞納者に対して次のような措置をとる。①選挙会員名簿には掲載しない、②該当年度の『経済政策ジャーナル』を送付しない、③全国大会・国際大会と部会での研究報告を受け付けない。

3-13 会員資格の喪失:会費滞納により会員資格を喪失した者については、常務理事会及び総会に報告したうえで、会員名簿から削除する。滞納分の会費が完済され、退会届が提出されたときに退会を認めることとし、それまでは本部事務局預かりとする。

2. 学会の退会及び再入会の規定について(常務理事・幹事会承認)

【資料3】「退会と再入会に関する内規」の変更について

内規(現行)

退会手続きについて

1. 会員から退会届が提出された場合、これを会員総会で承認する。
2. 本人が死亡等により学会活動を継続できなくなった場合には、会長より会員総会へ退会を報告する。
3. 3年連続学会費を滞納した場合、会長より会員総会へ報告し自動的に退会とする。
4. ただし上記規定3の退会対象者に関しては滞納した学会費を納付することによって退会を取り消すことができる。
5. 滞納している学会費の納付に関しては過去の会期分より順次充当することとする。
6. 学会費滞納によって自動的に退会となった者は、退会となった年度より3年間は再入会を認めない。

内規(改正案)

退会手続きについて

1. 会員から退会届が提出された場合、これを会員総会で承認する。
2. 本人が死亡等により学会活動を継続できなくなった場合には、会長より会員総会へ退会を報告する。
3. 3年連続学会費を滞納した場合、会長より会員総会へ報告し自動的に退会とする。
4. 学会費滞納によって自動的に退会となった者は、退会となった年度より3年間は再入会を認めない。ただし、再入会金 10,000 円を納入することで再入会を認める。

3. 本部会務報告(会員情報システムの運用開始について)

停止中であった会員情報システムについて、2024年4月～新しい会員情報システムの運用開始しました。

会員情報システムでは、以下の機能を利用いただけます。

1. 会員情報検索
2. 会員情報変更(ご所属、メールアドレス、郵送連絡先等)
3. 年会費の請求書・領収書ダウンロード
4. 新規学会入会申請

初回のみ「ID・パスワードをお忘れの方はこちら」から、パスワードの設定が必要となります。

2024年度年会費より、会員情報システムからの請求案内をお送りします。

4. 名誉会員の推薦について(中部部会・土井康裕) (常務理事・幹事会承認)

中部部会より荒山裕行氏(名古屋大学名誉教授)の推薦があった。

2010～2012年度 会長(1期3年)

2007～2009年度 副会長(1期3年)

2004～2006年度 国際交流委員会 副委員長(1期3年)

2004～2015年度 常務理事(4期12年)

名誉教授の要件(覚書3-5 1988年、1996年)

「会長・副会長経験者と常務理事を4期(12年)務めた会員、及びそれに相当する会員を一応の目安とする」「年齢については70歳にこだわらず緩やかに取り扱う」

5. 学会賞の選考について(学会賞選考委員会・村瀬英彰) (常務理事・幹事会承認)

受賞者無し

6. 理事選出、常務理事選挙について(本部事務局・宮田由紀夫)

業務負担の軽減並びに郵送代節約のため、グーグルフォームズによるオンライン投票の実施を提案する。組織委員会(地方選挙管理委員会)は承認済である。各地方部会の部会長と選挙管理委員にそれぞれに投票が送られるようにする形で、開票の立会を実施する。技術的・セキュリティ上、実施が不可能と判明すれば従前の往復はがきによる投票とする。

⇒12月6日の常務理事・幹事会にて「日本経済政策学会役員選出内規」改訂を審議する予定

7. 各部会報告

【2023 年度関東部会活動報告】

(1) 関東部会 常務理事・理事・幹事会

日時:2024 年 1 月 6 日(土)13:00~14:00

開催形式:Webex によるオンライン会議

議題

1. 国際会議関係(今後の国際会議の開催方式について、第 23 回 淑徳大学)
2. 全国大会関係(第 81 回 熊本学園大学、第 82 回 青山学院大学)
3. その他

(2) 関東部会 研究会関係

以下のオンライン研究会を開催した。

【開催日時】 2023 年 11 月 11 日(土) 13:00~

【開催方法】 Webex を利用したオンライン開催

【報告者】 中村亮介氏 関東学院大学経済学部

[共著者 田中宏樹氏(同志社大学政策学部)・金田陸幸氏(大阪産業大学経済学部)]

【報告テーマ】教育費の所得弾力性の検証—コーホート分析による支出実態の考察

【報告内容】 この研究は、1984 年から 2014 年までの全国消費実態調査(5 年おき)の個票データを入手し、日本の教育費の所得弾力性やその変化を回帰分析によって検証した研究である。分析手法として、世帯主の年齢や世代、調査時点の効果をコントロールした Age-Period-Cohort 分析や最小二乗法を採用し、所得弾力性の大きさを検討する。

【討論者】 田中敬文氏(東京学芸大学)

【使用言語】 日本語

【共 催】 中央大学 経済研究所

上記の研究会報告に基づき、ディスカッションペーパーを発刊した。

◆中村亮介・田中宏樹・金田陸幸「世帯主のコホートに着目した教育費支出についての考察—全国消費実態調査を用いた実証分析—」中央大学経済研究所 Discussion Paper No.400 (2024-04-05).

URL: <https://chuo-u.repo.nii.ac.jp/records/2000801>

(文責 小澤 太郎)

【2023 年度中部部会活動報告】

1. 常務理事・理事・幹事会

- (1) 第 1 回 日時:2023 年 9 月 15 日(金) 13:00~13:50, 会場:Zoom オンライン形式
審議事項と主な結果
1)次回中部地方大会の開催について
2)次回の役員会開催日程について
3)中部地方大会等の案内方法について
4)名誉会員の推薦について
5)中部部会事務局と Web 管理について
中部地方大会は, 12 月に愛知淑徳大学で開催. 案内は電子メールを活用.
- (2) 第 2 回 日時:2023 年 11 月 10 日(金) 17:00~18:00, 会場:Zoom オンライン形式
審議事項と主な結果
1)2023 年度第 55 回中部地方大会(愛知淑徳大学)について
2)荒山裕行先生の名誉会員の推薦について
3)次年度開催校の候補について:継続審議
中部地方大会のプログラムを決定. 荒山裕行先生を名誉会員として学会本部に推薦することを満場一致で承認.
- (3) 第 3 回 日時:2023 年 12 月 23 日(土) 12:00~13:03, 会場:愛知淑徳大学星が丘キャンパス
審議事項と主な結果
1)会計報告について
2)次年度開催校の候補について
3)総会議長について
4)役員欠員について
5)国際会議の開催方式について
2020 年から 2023 年までの収支を承認. 次年度開催校は継続審議.

2. 中部地方大会

日時:2023 年 12 月 23 日(土)10:00-16:20

会場:愛知淑徳大学星が丘キャンパス 13C 教室

参加者数:30 名

10:00~10:10[開催挨拶]

渡邊聡(愛知淑徳大学、第 55 回中部地方大会準備委員長)

10:10~11:50[研究報告会:午前の部]座長: 渡邊隆俊(愛知学院大学)

研究報告①「製造業における異質性企業の輸出と技術の選択—企業活動基本調査データを用いた産業別実証分析—」

報告者:井澤 宏(名古屋大学大学院経済学研究科博士前期課程)

討論者:加藤 篤行(金沢大学)

研究報告②「Public capital, public debt, and economic growth: the role of elastic labor supply」

報告者:宮下 大輔(名古屋大学大学院経済学研究科)

討論者:萩原 史朗(名古屋学院大学)

12:00～13:00[昼食ならびに役員会]

13:00～13:30[会員総会]

13:30～15:10[研究報告会:午後の部/特別講演]座長:土井 康裕(名古屋大学)

研究報告③「Policy design for diffusing hydrogen economy and its impact on Japanese economy by 2050 carbon neutrality: Analysis using the E3ME-FTT model」

報告者:李 秀澈(名城大学)

討論者:木船 久雄(名古屋学院大学)

研究報告④「子育て支援と出生率および経済成長—児童手当および保育支援の拡充と財源確保に関する考察—」

報告者:村田 慶(静岡大学)

討論者:竹内 信仁(名古屋大学名誉教授)

15:20～16:10[特別講演]「『経済学』のナラティブが理論的思考の邪魔をする?—企業の利潤最大化と費用関数・生産関数—」

講師:荒山 裕行(名古屋大学名誉教授)

16:10～16:20[閉会挨拶]

浅井敬一郎(愛知淑徳大学大学院ビジネス研究科長)

伊澤俊泰(名古屋学院大学、日本経済政策学会中部部会長)

16:30～18:00 [懇親会]

3.会員総会

日時:2023年12月23日(土) 13:08～13:26

会場:愛知淑徳大学星が丘キャンパス

審議事項と主な結果

1)会計報告について

2)次年度開催校の候補について

3)役員欠員について

4)荒山裕行先生の名誉会員の推薦について

2020年から2023年までの収支を承認. 次年度開催校は, 役員で検討することを承認. 部会の会計監事は渡邊聡理事(愛知淑徳大学)に担当をいただくことを承認. 荒山裕行先生を名誉会員に推薦することを承認.

(文責 伊澤 俊泰)

【2023 年度関西西部会活動報告】

1. 関西西部会大会

下記のとおり開催した。

開催日：2024 年 3 月 16 日（土）

場所：同志社大学今出川キャンパス

運営委員長：竹廣良司常務理事

プログラム

午前の部 RY407 教室(良心館 4 階)

9:05 - 9:10 開催の挨拶竹廣良司(同志社大学)

午前の部 座長 和田美憲(同志社大学)

第 1 報告 9:10-10:00

報告者:中野 あい (元神戸大学大学院経済学研究科)

論題:夫婦の家事時間と経済的ゆとり感に関する分析

討論者:荒山 裕行(名古屋大学)

第 2 報告 10:05-10:55

報告者:鶴飼 康東(関西大学)

論題:大学別査読論文生産性のパネルデータ分析

討論者:福重元嗣(大阪大学)

第 3 報告 11:00-11:50

報告者:高橋 勇介(愛媛大学法文学部人文社会学科)

論題:雇用形態や職場環境と労働者の健康と満足度の要因について

討論者:木下祐輔(大阪商業大学)

常務理事・幹事会 12:00-13:00 RY305 教室(良心館 3 階)

午後の部① RY407 教室良心館 4 階)

座長 木下 信(龍谷大学)

第 1 報告 13:10-14:00

報告者:趙 和光(同志社大学大学院経済学研究科博士後期課程)

論題:日本における自動車産業の部門間金融リスク関係—LASSO-VAR に基づく株価変動のスピルオーバー効果検証—

討論者:池田晃彦(京都産業大学)

第 2 報告 14:05-14:55

報告者:孫 園園(龍谷大学大学院経済学研究科博士後期課程)

論題:The Impact of Technological Factors Based on Smart Grid in Electricity Market on Greenhouse Gas Emissions

討論者:朴勝俊(関西学院大学)

午後の部②

座長 川上 敏和(同志社大学)

第1報告 13:10-14:00

報告者:朱 浩良(大阪経済法科大学経済学部)

論題:深化した貿易協定の経済的決定要因の検証:離散型生存時間分析

(Examining the Economic Determinants of Deep Trade Agreements: A Discrete-Time Survival Analysis)

討論者:野北 晴子(広島経済大学)

第2報告 14:05-14:55

報告者:上田 雅弘(同志社大学商学部)

論題:日本の製紙業における規模の経済性とマーク・アップ率の循環に関する理論実証分析

討論者:張 星源(京都女子大学)

第3報告 15:00-15:50

報告者:住宅 亨介(広島経済大学大学院経済学研究科経済学専攻博士課程前期課程)

論題:日本の食料自給率の定義の限界

討論者:衣笠智子(神戸大学)

15:50-15:55 総括 閉会挨拶 関西西部会代表 衣笠智子(神戸大学)

2 見学会

下記の通り開催した。

日時:2024年3月15日(金) 13:30-16:30頃

訪問先:島津製作所本社・三条工場(京都市中京区西ノ京桑原町1)

<https://www.shimadzu.co.jp/aboutus/company/access/sanjo.html>

内容:

株式会社島津製作所は京都に本社・生産拠点を置く日本有数の機器メーカーであり、1875年(明治8年)の創業以来、医療用X線装置や電子顕微鏡の商品化など日本初の取り組みで産業を牽引してきた企業です。2002年には従業員である田中耕一氏がノーベル化学賞を受賞するなど、優れた人的資本の形成面でもクローズアップされています。今回の見学会では、竹廣良司常務理事(同志社大学)が世話人となり、企画していただきました。本社および隣接する工場の見学に加え、半導体を巡る昨今のグローバルな課題等、企業としての対応や戦略についてお話を伺いました。21名が参加し、最新の技術や製作の現場を興味深く視察し、企業の方と積極的なディスカッションをすることができました。

3 常務理事・幹事会

関西部会常務理事・幹事会

日時:2023年5月29日～6月5日

場所:メール審議

議題:2026年の日本経済政策学会全国大会開催校について

関西部会から2026年の全国大会開催校として関西学院大学を推薦する。運営委員長を宮田由紀夫副会長とする。

関西部会常務理事・幹事会

日時:2024年1月11日～18日

場所:メール審議

議題:

- (1) 関西部会2023年度大会(同志社大学)について
8名の報告申込者が報告することを了承した。
- (2) 名誉会員の推薦について
これまでのところ名誉会員の推薦はなかった。

報告事項:

- (1) 次回の常務理事・幹事会、常務理事・理事・幹事会について
- (2) 見学会について
- (3) 今後の国際会議の開催方式に関する検討依頼

関西部会常務理事・幹事会

日時:2024年2月24日 16:00-17:40

場所:Zoom

議題:

- (1) 議事録の確認(常務理事・理事・幹事会:2023年3月11日、常務理事・幹事会:2023年5月29日～6月5日、常務理事・幹事会:2024年1月11日～18日)について
- (2) 関西部会2023年度大会(同志社大学)について
- (3) 関西部会2023年度見学会について
- (4) 関西部会2024年度研究大会の開催校について
- (5) 名誉会員の推薦について
- (6) 2023年度国際会議(立命館大学)について
- (7) 今後の国際会議の開催方式について
- (8) その他

議事録:

- (1)～(4)、(6)は、承認された。
- (5)名誉教授の推薦はなかった。
- (7)今後の国際会議の開催方式や国際会議に関する課題について意見を出し合った。2024年3月の常務理事・理事・幹事会でも継続審議する。

報告事項:

- (1) 2023 年度常務理事・理事・幹事会について
- (2) その他

4 常務理事・理事・幹事会

日時:2024 年 3 月 16 日(土) 午後 0 時 00 分～午後 1 時 00 分

場所:同志社大学今出川キャンパス RY305 教室(良心館 3 階)

- (1) 議事録の確認(常務理事・理事・幹事会:2023 年 3 月 11 日、常務理事・幹事会:2023 年 5 月 29 日～6 月 5 日、常務理事・幹事会:2024 年 1 月 11 日～18 日、常務理事・幹事会:2024 年 2 月 24 日)について
議事録が承認された。
- (2) 関西部会 2023 年度大会(同志社大学)について
プログラムのとおり開催することを承認した。
- (3) 関西部会 2024 年度見学会について
承認された。
- (4) 関西部会 2024 年度研究大会の開催校について
大阪商業大学にて開催することとなった。運営委員長は豊山宗洋理事。
- (5) 役員交代について
承認された。
- (6) 関西部会 2024 年度会計報告
水野倫理本部幹事より監査報告があり承認した。
- (7) 今後の国際会議のあり方について
原案に微調整を加えたものを、今後の国際会議のあり方に関する関西部会の意見として、国際交流委員に提案することが承認された。
- (8) その他
特になし。

報告事項:

- (1) 2024 年度(第 81 回)全国大会
- (2) 2024 年度(第 23 回)国際会議
- (3) その他

(文責 衣笠 智子)

【2023 年度西日本部会活動報告】

第 1 回部会理事会

日 時 2023 年 4 月 15 日(土)13:30～

場 所 九州産業大学1号館7階 S701 教室(福岡市東区松香台二丁目3番1号)

議 題 第 1 号報告全国常務理事・幹事会、委員会等報告について

第 2 号報告令和 4 年度の事業実施について

第 1 号議案令和 4 年度決算について

第 2 号議案令和 5 年度予算について

第 3 号議案日本経済政策学会第 81 回(2024 年度)全国大会の準備について

第4号議案次回大会について

その他

第108回大会

日時 2023年4月15日(土)14時15分～

場所 九州産業大学1号館7階 N701 教室(福岡市東区松香台二丁目3番1号)

研究会(報告30分、予定討論15分、応答10分)

【第1報告】14時15分～15時10分

「新型コロナワクチンの接種行動と科学コミュニケーションに関する一考察」

報告者 大野正久(熊本大学)

討論者 熊谷啓希(熊本学園大学)

会員総会(研究会終了後、直ちに開催)

(1)理事・幹事会報告について

(2)日本経済政策学会第81回(2024年度)全国大会の準備について

(3)その他

第2回理事会

日時 2023年11月11日(土) 13:00～

場所 熊本学園大学 新1号館みらい 14A (熊本市中央区大江2丁目5番1号)

議題第1号報告 日本経済政策学会第81回(2024年度)全国大会の準備について

第1号議案 次回部会大会について

その他

第109回大会

日時 2023年11月11日(土)14時30分～

場所 熊本学園大学 新1号館みらい 141 教室(熊本市中央区大江2丁目5番1号)

研究会(報告25分、予定討論10分、応答5分)

【第1報告】14時30分～15時10分

「独占市場におけるカーボンプライシングと戦略的環境・CSRの厚生比較」

報告者 大野正久(熊本大学)、日笠乃愛(御船町立木倉小学校)

討論者 谷晶紅(佐賀大学)

【第2報告】15時10分～15時40分

「階級対応の税制と資本主義の安定性 -二部門二階級経済モデルにおけるナイフ・エッジの形成-」

報告者 明石昭生(久留米大学大学院 指導教員:秋本耕二)

【第3報告】15時50分～16時20分

「ガソリン価格の公共財需要とマイカー需要に及ぼす影響」

報告者 柏木士郎(所属なし)、元山善一(久留米大学非常勤講師)

会員総会(研究会終了後、直ちに開催)

(1)理事・幹事会報告について

(2)日本経済政策学会第81回(2024年度)全国大会の準備について

(3)その他

(文責 秋山優)

8. 各委員会報告（国際交流委員会：国際会議のあり方について懇談）

【組織委員会】

- ・2023年9月22日、オンライン会議にて組織委員会を開催
- ・手続きの迅速化と事務負担軽減を目的として、「入会手続き」「学会規則」「日本経済政策学会会務運営細則に関する覚書」並びに「退会と再入会に関する内規」の改定について検討を行った。
- ・改定案は11月17日の常務理事・幹事会において承認された。
- ・なお変更点については「報告事項」を参照のこと。

- ・2024年4月17日からメールにて組織委員会を開催
- ・「常務理事選挙の投票について」について検討を行った結果、2024年5月の常務理事・幹事会及び理事会において、常務理事選挙においてオンライン投票の実施可能性について検討を行い、実施が可能との見通しがたった場合はオンライン投票によって選挙を行うことを諮ることとなった。

（文責 宍倉学）

【地方選挙管理委員会】

オンライン投票の可能性について検討した(前述)。

【経済政策ジャーナル編集委員会】

1. 編集会議の開催と議事録について

- 計6回の編集会議を持ち回りで開催し、投稿論文の査読と雑誌の発行について審議した。

(1) 編集会議 2023年6月

日時:2023年6月1日(木)～6日(火)

場所:メール審議(持ち回り)

審議事項:

1. 査読論文の判定案について

報告事項:

1. 2023年全国大会の共通論題特集について

審議内容の抜粋

審議事項 1

- 投稿論文の審査結果が審議され、原案が了承された。編集委員長より、投稿者に結果を通知する。

(2) 編集会議 2023年8月

日時:2023年8月7日(月)～10日(木)

場所:メール審議(持ち回り)

審議事項:

1. 2023年7月〆切分の投稿論文の担当編集者について
2. 第20巻第1号の発行の延期について

審議内容の抜粋:

審議事項 1

- 2023年7月末の〆切までに6本の投稿論文を受理した。担当編集委員の原案が了承された。各編集委員より査読者を依頼し、査読プロセスを開始する。

審議事項 2

- 第20巻第1号については、査読付論文が採択され次第、全国大会の報告要旨と併せて刊行する。
- 8月末に研究ノート1編が採択されたため、9月末日に第20巻第1号を発行した。

(3) 編集会議 2023年11月

日時:2023年11月25日(土)~30日(木)および11月28日(火)~12月1日(土)

場所:メール審議(持ち回り)

審議事項:

1. 査読論文の判定案について

審議内容の抜粋:

審議事項 1

- 2023年7月〆切の投稿論文について第1ラウンドの審査結果が審議され、原案が了承された。編集委員長より、投稿者に結果を通知する。

(4) 編集会議 2023年12月

日時:2023年12月26日(火)~28日(木)

場所:メール審議(持ち回り)

審議事項:

1. 査読論文の判定案について

審議内容の抜粋:

審議事項 1

- 2023年7月〆切の投稿論文について第1ラウンドの審査結果が審議され、原案が了承された。編集委員長より、投稿者に結果を通知する。

(5) 編集会議 2024年1月

日時:2024年1月9日(火)~12日(金)

場所:メール審議(持ち回り)

審議事項:

1. 2023年12月〆切分の投稿論文の担当編集者について

審議内容の抜粋:

審議事項 1

- 2023 年 12 月末の〆切までに 5 本の投稿論文を受理した。担当編集委員の原案が了承された。各編集委員より査読者を依頼し、査読プロセスを開始する。

(6) 編集会議 2024 年 3 月

日時:2024 年 3 月 13 日(水)～16 日(土)

場所:メール審議(持ち回り)

審議事項:

1. 査読論文の判定案について
2. 第 20 巻第 2 号(通巻第 89 号)の発行について

審議内容の抜粋:

審議事項 1

- 投稿論文の審査結果が審議され、原案が了承された。編集委員長より、投稿者に結果を通知する。

審議事項 2

- 第 20 巻第 2 号については、複数本の査読付論文が採択され次第、全国大会の報告要旨と併せて刊行する。
- 後日 2 本の研究論文が採択され、現在、2024 年 4 月末～GW 明けを目途に発行手続き中。

2. 2023 年度決算について

- 2023 年度の決算書は本部事務局のご報告の通り。
- なお、第 20 巻第 2 号の発行に係る支出は、2024 年予算から執行予定。

(文責 勇上和史)

【国際交流委員会】

2023年11月18日と19日に立命館大学で開催された国際会議に関して:

- ・開催校である立命館大学を中心に、大会運営委員会と連携し無事に終えることができた
- ・国際会議終了後、大会運営委員会から遅滞なく運営することができたとご報告あり
- ・ただし、一名の申込者から返金の依頼があり対応に時間がかかった、
 - ⇒ 委員長である土井の対応が遅かったため、運営委員会の会計締めに関に合
わす、国際交流委員会から本部事務局へ相談し、本部から返金対応を行っ
ていただいた。

2023年11月17日（金）全国大会常務理事・幹事会での議論：

- ・国際交流委員会から、国際会議の開催方法に関して以下のような課題があること説明
 - 開催校の負担が大きい（全国大会と比較しても）
 - 私立大学の入試時期に重なり、座長や討論者を探すことが困難
 - 海外からの参加希望者が多く、ビザ等の手続きや関連する問い合わせ・連絡が煩雑かつ膨大 等々
- ⇒ 結果、このままの開催形態で維持することは難しいので、学会として審議を依頼
これを受け、会長から「各部会で検討を促すため、国際交流委員会から検討依頼文を
出す」よう依頼があり。

2023年11月19日（日）

国際交流委員会委員長2名とプログラム委員長、プログラム事務局長で今後の国際会議について意見交換を行う。2024年度の開催は決まっているが、2025年度以降については継続審議とした。

2023年11月22日から12月13日まで各部会への依頼文検討：

- ・国際会議の開催方法について、関係各位とメール審議を行い、各部会への審議依頼に関する依頼文についてメールにて検討を行った。
- ・12月13日までに内容をまとめ、本部事務局を担当している副会長の宮田先生に各部会長へ依頼文の送付を依頼。
- ・12月14日に本部事務局から各部会長へ依頼文を送付。

部会から回答状況：

- ・2月15日 中部部会
- ・3月18日 開催部会
- ・4月22日 西日本部会

別添:これまでの常務理事・幹事会と各部会からの意見要約

(文責 土井康裕)

国際交流委員会懇談事項

これまでの常務理事・幹事会と各部会からの意見要約:

ここまでの会議や各部会での検討を通して、国際会議の開催について課題の共有ができ、開催方法の変更に関する検討について合意を得ることができた。各部会からの意見を踏まえ、現状議論の要点は三つに絞られる。

- (1) 国際会議の開催方法
利便上、オンラインやハイブリット開催も検討すべきであるとの意見があった。オンライン開催の場合、利便性や旅費節約のため、発表が増えることも考えられる。同時に、オンラインの場合、発表のために来日を希望する海外の研究者(多少、観光目的?)が発表しなくなる可能性も考えられる。また、対面で行わないと人的ネットワークの新規構築が難しいため、学会として国際会議を開催する価値を考え直さなければいけないという意見もあった。
- (2) 開催の頻度
常務理事・幹事会の席では、毎年に対面開催が難しいのであれば、隔年開催等を検討すべきとの意見もあった。部会からの意見では、隔年開催への賛同はなかった。対面の国際会議を隔年開催にした場合、発表の機会が減るので、国際会議の勢いをそぐという意見もあった。
- (3) 開催時期(各部会からの総意)
各部会からの意見をまとめると、秋の開催は大学の行事と重なりやすいということもあり、春の全国大会と同じまたは連続した日程で行うことに賛成している。
ただし、開催校の負担は増える可能性があるため、対応策が必要である。例えば、所属の地方部会が支援する等、役割分担を明確にすることは効果的ではないか。開催校は場所のみ提供し、プログラムはプログラム委員会が決める等、分業をしっかりと行う。年に2回、大きな大会を開くよりは、1回にした方が負担軽減になるのではないかと意見もあった。

追記: 今回の議論で提案された意見

これまでの日本経済政策学会において、国際会議等の大会企画はプログラム委員会に任せて会長は干渉しない、というやり方が維持されてきた。今回のように大きな改革を要する時期には、もっと会長や副会長が主催者として関わるべきかもしれない。3年の任期中、会長は大会の成功のために尽力する。そうすれば、年に1回、大きな大会をやるのが精いっぱいということになるであろう。

(文責 土井康裕)

【国際会議プログラム委員会】

報告事項無し

【IJEPS 編集委員会】

International Journal of Economic Policy Studies (IJEPS)編集と公刊の状況について報告いたします。

(1) 公刊状況

Volume 18, Issue 1, February 2024:13 本の論文・記事掲載(通常の研究論文)

Volume 17, Issue 2, August 2023:11 本の論文・記事掲載(うち 6 本は特集と特集序文, 5 本は通常の研究論文)

Volume 17, Issue 1, February 2023:14 本の論文・記事掲載(通常の研究論文)

Volume 16, Issue 2, September 2022:7 本の論文・記事掲載(通常の研究論文)

Volume 16, Issue 1, February 2022:15 本の論文・記事掲載(通常の研究論文)

Volume 15, Issue 2, September 2021:8 本の論文・記事掲載(通常の研究論文)

Volume 15, Issue 1, February 2021:12 本の論文・記事掲載(うち 4 本は特集と特集序文, 8 本は通常の研究論文)

Volume 14, Issue 2, August 2020:10 本の論文・記事掲載(うち 6 本は特集と特集序文, 4 本は通常の研究論文)

Volume 14, Issue 1, February 2020:12 本の論文・記事掲載(うち 4 本は特集と特集序文, 8 本は通常の研究論文)

Volume 13, Issue 2, August 2019:10 本の論文・記事掲載(うち 7 本は特集と特集序文, 1 本は解説記事, 2 本は通常の研究論文)

Volume 13, Issue 1, January 2019:13 本の論文・記事掲載(うち 4 本は特集と特集序文, 9 本は通常の研究論文)

(2) 投稿と査読の状況(24年5月1日時点)

Springer 移行後の最終処理済み投稿論文:総数 334 件(採択 104 件, 棄却 213 件, 取下げ 17 件)

処理中投稿論文:修正依頼中 7 件, 査読中 17 件, 未処理 21 件

査読に要する平均日数:投稿から第一決定まで 117 日

論文ダウンロード数:24,077 回(2022 年総計)54,314 回(2023 年総計)

(3) 採択率

「採択率=(採択)/(採択+棄却)」

2023 年 5 月 1 日時点: $(104)/(104+213)=32.8\%$

2023 年 11 月 9 日時点: $(92)/(92+151)=37.9\%$

2023 年 5 月 12 日時点: $(79)/(79+131)=37.6\%$

2022 年 11 月 11 日時点: $(70)/(70+108)=39.3\%$

2022 年 5 月 9 日時点: $(57)/(57+82)=41.0\%$

2021 年 11 月 3 日時点: $(49)/(49+77)=38.9\%$

2021 年 5 月 10 日時点: $(33)/(33+62)=34.7\%$

2019 年 11 月末時点: $(6)/(6+22)=21.4\%$

(4) IJEPS の文献データベース収録採択について

2023 年度下半期報告まで報告した通り, (a) Elsevier 社の運営する Scopus (22 年 4 月), (b) American Economic Association の運営する Econ Lit (22 年 4 月), (c) Clarivate Analytics 社の運営する Emerging Sources Citation Index (ESCI)(23 年 10 月)など文献データベース収録に採択されてきている. また, ESCI 採択により, 2024 年中に Impact Factor が付くと予想される.

今後上記を維持するためには, 質量ともに安定した論文掲載が必要であり, Springer 社からは年間 25 本以上の査読論文(査読でないものはカウントから除外)の掲載が望まれると言われている.

(5) 参考: 海外学術出版社 Springer 社への移行の経緯

2018 年 1 月より Springer 社との交渉を開始

2018 年 2 月末 Proposal 提出, Springer 社側で外部審査

2018 年 5 月 Springer 社側の外部審査終了, 条件付きで刊行を可とする旨通知

2018 年 5 月末 Proposal 修正の上再提出と共に出版契約(5 月 29 日付)

(2019 年 1 月より年 2 回(1 月末、7 月末)出版決定(2 年間の試行))

2018 年 7 月 Springer 社投稿受付・編集サイト Editorial Manager(EM)立ち上げ

2019 年 1 月 Springer 社より初公刊(IJEPS13 号: 冊子体・電子版, 掲載 13 件)

2019 年 2 月これまでの IJEPS 全巻を Springer 電子版へ移行完了

(2006 年~19 年全 13 巻, 全掲載論文 97 件)

(文責 前田 章)

【学会運営企画委員会】

報告事項無し

【全国大会プログラム研究・開発委員会】

○ 日本経済政策学会全国大会引継ぎ会

開催日時: 2023 年 5 月 21 日(日) 12 時~ 12 時 55 分

開催場所: 中央大学 Forest Gateway Chuo 5 階 F505 教室

参加者: 福重元嗣先生(会長),

永富隆司先生(全国大会プログラム研究・開発委員会, 委員長)

渡邊隆俊先生(全国大会プログラム研究・開発委員会, 副委員長)

石原敬子先生(全国大会プログラム研究・開発委員会, 事務局長)

諸賀加奈先生(全国大会プログラム研究・開発委員会, 事務局次長)

飯島大邦先生(2023 年度全国大会開催校, 中央大学)

小森谷徳純先生(2023 年度全国大会開催校, 中央大学)

松八重泰輔先生(2023 年度全国大会開催校, 中央大学)

朴哲洙先生(副会長, 2024 年度全国大会開催校, 熊本学園大学)

秋山優先生(西日本部会代表, 常務理事)

宍倉学先生(西日本部会, 常務理事)

岡村薫先生(2024 年度全国大会開催校, 熊本学園大学)

➤ 次年度は全国大会を熊本学園大学で開催する。

【次年度の開催校から進捗状況の報告】(朴先生)

去年から西日本部会と相談して、本学の細江学長にどのようなテーマで全国大会を実施するのかを共有している。できれば日程・会場など優先してくれるように頼んでいる。熊本学園大学の全国大会運営委員は2名しかいないため、西日本部会の先生方に協力してもらう予定である。中央大学に倣って開催したいと考えている。第81回全国大会に向けて、大会趣意書などを作成しているが、具体的な企画はこれからである。

【全国大会の開催にあたって】(永富先生)

- ・ 6月中に大会開催費の銀行口座の開設を行う必要がある。大会運営委員会名と(大会運営委員長の)名前を入れて銀行口座を開設する。(中央大学では(国際会議で使用した)三井住友銀行で銀行口座を設けた。)
- ・ 6月中に銀行口座を開設し、本部事務局の宮田先生にその旨を連絡する。
- ・ 大会運営委員会の委員を確定する必要がある。
- ・ プログラム体制委員会については、全国大会プログラム研究・開発委員会4名と来年度の開催校(熊本学園大学)、今年度の開催校(中央大学)、副会長、常務理事のメンバーとする。オブザーバーとして現会長の福重先生、元全国大会プログラム研究・開発委員会委員長の内山先生(九州産業大学名誉教授)。

開催日の仮決定

2024年6月1日(土)、2日(日)で開催予定とする。【第1候補】

2024年5月18日(土)、19日(日)【第2候補】

※ 日本経済学会、日本金融学会、日本応用経済学会の日程を考慮して、全国大会開催の調整を行う。また、開催校の学内の予定を確認する。

- ・ 9月ごろに全国大会ホームページを立ち上げる。(8月中、遅くとも9月までに立ち上げる。内容については、テーマと大会趣意書が記載されていればよい。)
- ・ 遅くとも10月から全国大会のHPで報告募集を行う。10月と1月に2回本部事務局から募集の連絡を行ってもらう。通常2月中旬ぐらいが報告要旨提出期限であるが、期間延長をする場合は本部事務局から連絡をするようにする。
- ・ 大会1日目は開催校でプログラムを検討し、2日目は全国大会プログラム体制委員会で検討する。
- ・ 進捗状況は、学会等で定期的に報告する。11月の国際会議の常務理事会で進捗状況の報告。それまでに共通論題のテーマと講演者を決めておく必要がある。

【今年度の全国大会開催について】(飯島先生、福重先生、諸先生方から)

- ・ 講演者は開催10カ月ぐらい前に確定していた。できるだけ早い段階で講演依頼をすべきである。今の時期にはどんな人に講演を依頼するかを絞り込んでいた。全国的に飛び回っている人は前もって連絡を早めにする必要があるが、民間の人たちなど多くの人をピックアップしてコーディネートする必要がある。(2021年11月には講演者を決めていた。2022年6月ぐらいに講演依頼をしていた。)

- ・ 11月上旬に開催される西日本部会第109回大会にて進捗状況を報告いただき、さらに国際会議の常務理事会で進捗状況の報告を行っていただく必要がある。
- ・ 中央大学は大会HPの作成は業者に依頼した。費用はHPの立ち上げと簡易マニュアルなどで19万円ぐらいだった。
- ・ 大会趣意書に沿って、開催校が共通テーマを考えてよい。大会初日は開催校に任せられる。趣意書は10月まで微調整はできるので、現在の趣意書に沿ったラインで趣意書を変えることはできる。学会のHPに載ってしまったら変えられない。
- ・ これまで共通論題セッションの司会は開催校から出さないとしていたが、今回開催の中央大学では司会は開催校が担当した。共通論題セッションでの司会は午前と午後で異なり、知り合いの先生に依頼している。
- ・ 看板の貼り方などに気をつけたほうがよい(経路を1本化する)。
- ・ 休憩室のお茶などは買いすぎたと思うが、2日目に参加者がいれば問題ない。
- ・ 懇親会の設定をどうするかを検討する必要がある。
- ・ 海外の講演者を呼ぶ場合は手間がかかるが、オンラインよりも実際に来てもらったほうがよいのではないか。
- ・ 予算は120万円であり、懇親会費を抜いて残額50万円ぐらいである。
- ・ 講演謝金[教授5万円、准教授3万円、謝金なしの方はお車代として2万円(秘書とのやり取りで領収書なしで対応)、大学に一部負担してもらった。]
- ・ 学生アルバイトは日給1万円とした。
- ・ 学生アルバイトの人数は多かったと思う(大学院生1名と学部生11名の合計12名であったため、10名程度でもよかったかと思う)。各教室には学生1名を配置し、ベースの人数を考える。
- ・ 過去の全国大会HPがかなり消えているので、大会のデータ自体は残しておくべきではないかと思う。部会のHPが変わると紐づけできないため、本部のHPにぶら下げておくべきではないか。

【次年度の全国大会開催について】(秋山先生)

開催にあたり、大会運営のすべてを熊本学園大学で担当できないため、西日本部会で部会理事を中心にバックアップ体制をとっている。講演依頼をする際は、関東部会等の先生方にもお力添えをいただきたい。大会HPは熊本学園大学ではまだ用意されていないため、西日本部会(九州産業大学)の方で簡単な大会HPを準備している。それを熊本学園大学に移す予定である。さしあたりは西日本部会でHPを立ちあげて、そこから熊本学園大学のリンクに飛ぶような形をとっている。

熊本県は遠隔地なので、初日の午前中に理事会と総会を行い、午後から共通論題セッションを行う予定である。2日目の自由論題セッションは午前・午後と実施し、午後のセッションは早めに終了する予定である。参加者の帰りの飛行機の予定もあるので、横に広げたセッションで開催する予定である。そのため、複数の会場(教室)の確保が必要である。

○ 全国大会プログラム体制委員会の開催

(2024年3月2日(土) 13:00 開式, 熊本学園大学)

- ・ 2024年度全国大会(熊本学園大学)の準備の進捗状況の説明
- ・ 大会当日までの報告申し込み等のスケジュールの確認
 - ① 自由論題セッション
(申し込み締め切り) 2024年2月17日(土曜日)
(報告要旨提出期限) 2024年2月17日(土曜日)
(報告論文提出期限) 2024年4月13日(土曜日)

② 企画セッション

(提案の締め切り) 2024年2月17日(土曜日)
(提案要旨提出期限) 2024年2月17日(土曜日)
(報告論文提出期限) 2024年4月13日(土曜日)
(報告要旨提出期限) 2024年4月13日(土曜日)

※ 申し込み書の提出先: 第81回全国大会プログラム体制委員会
提出先アドレスを作成: program@jepa.jpn.org

- ・ 報告申込み(エントリー数)の状況報告
総エントリー数 34件(企画セッション1件, 自由論題セッション33件)
- ・ セッション割, セッション名の決定
- ・ 座長および予定討論者の決定
- ・ その他
大会開催の周知について
大会HPの開設
(2023年8月30日(水曜日))
エントリー開始
(2023年10月23日(月曜日))
本部事務局より一斉送信
 - ① 2023年10月20日(金曜日)
 - ② 2024年1月10日(水曜日)
 - ③ 2024年2月18日(日曜日)申込み期間の延長(2月18日(日曜日)⇒2月27日(火曜日))
周知方法は大会HP, および本部事務局からの一斉送信
過去の全国大会の大会記録(プログラム)をすべて閲覧できるように整備が行われた。

2026年度全国大会より下記の方針をとる。

- ・フルペーパーの座長・討論者への送付が締め切り日の1週間後にできていない場合は、エントリーを取り消す。
- ・フルペーパーは会員にのみアクセスコードを用いて、大会の前後それぞれ1週間閲覧可能とする。

- ・座長・討論者による評価シートは廃止する。
- ・次年度大会の準備状況について
第 82 回全国大会 2025 年 5 月（土曜日および日曜日）
（於：青山学院大学）対面式での開催を予定

（文責 永富隆司）

【学会賞選考委員会】

受賞者なし。

【情報委員会】

□学会ホームページの運用

日本語版の学会ホームページの更新は、本部事務局からの要請に応じて柴田怜委員が実施した。本部事務局で過去資料のアーカイブ化を進めた成果である、『経済政策ジャーナル』および『日本経済政策学会年報』のバックナンバーPDFをアップロード完了した。ホームページの出版物メニューからそれぞれアクセス可能である。

英語版の学会ホームページと国際会議ホームページの更新は、国際会議開催校およびプログラム委員会と協力しながら和泉徹彦委員が実施した。

□会員情報システムの運用開始

旧システムがアクセス不能になっていた会員情報システムについて、新たなサービスと契約し、本務事務局と情報委員会にてカスタマイズして運用を開始した。会員情報システムには学会ホームページからアクセス可能であり、会員情報検索、会員情報変更（ご所属、メールアドレス、郵送連絡先等）、年会費の請求書・領収書 PDF ダウンロード、IJEPS 会員アクセス、そして新規学会入会申請の機能がある。

（文責 和泉徹彦）

9. その他

とくになし